

# 長野県の地域型木造住宅

— アンケート結果から —

## 1 はじめに

住宅の造り手（設計者、工務店）が、どのような住宅を地域型木造住宅（寒冷地である長野県の気候・風土にあった住宅：以下地域型住宅という）と捉えているか調査しました。

調査の方法は設計士、大工、工務店を対象にして25人にアンケートを郵送し、14人（北信1、東信1、中信8、南信4）から回答を得ました（図-1）。ここではその結果を報告します。

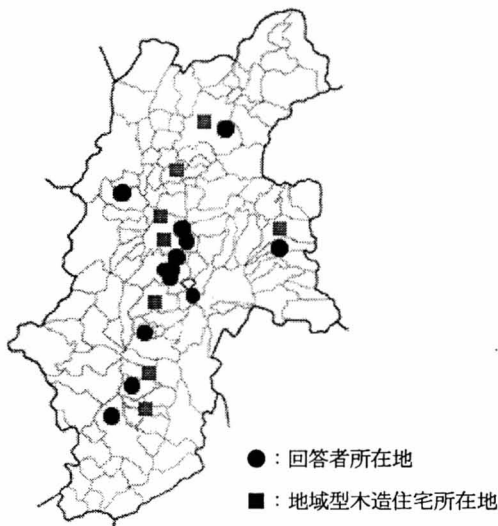


図-1 回答者所在地及び地域型木造住宅分布図

## 2 調査結果

### 屋根形状

設計管理、あるいは施工した地域型住宅の屋根形状を尋ねたところ、「切妻」（55%）と「寄せ棟」（29%）で84%を超えていました（図-1）。

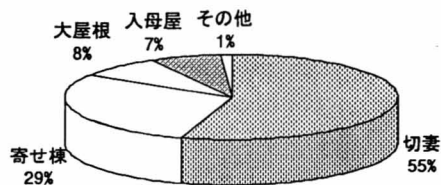


図-2 地域型木造住宅の屋根形状の比率

### 開口部の大きさと雨戸

得られた地域型住宅20戸の集計では開口部の壁面積に対する割合は「東」（20%）、「南」（46%）、「西」（20%）、「北」（17%）であり、南に開口部が多く、採光は勿論のこと、20戸のうち14戸が常風の方向を南と答えており、通風についても考慮されていると思われました。雨戸はほとんどの回答者が「無い」と答えていました。

### 間取り

地域型住宅としての間取りについて聞いたところ、上座敷、下座敷の2間は不要で、8畳ぐらいの和室があれば十分という回答が多く、長期的な視点から空間利用をフレキシブルに考えようという傾向が認められました。

### 構造材の断面寸法

地域型住宅に使っている構造材の断面寸法を尋ねたところ、柱では「120mm角」（約60%）、「105mm角」（約40%）の2種類、土台も同じ2種類でした。そのほか根太は「45×54mm」（約75%）、大引きは「90×90mm」、2階根太は「45×105mm」、母屋は「90×90mm」、垂木（は「45×75mm」、筋交いは「45×90mm」が、それぞれ代表値でした。

梁の最大スパンを尋ねたところ、「4550mm」（60%）、「3640mm」（25%）、「5460mm」（11%）、「2730mm」（4%）であり、「4550mm」と「3640mm」で85%を占めました（図-3）。

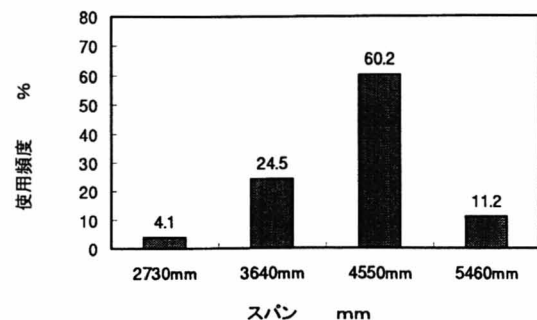


図-3 最大スパン寸法使用頻度の割合

次に、最大スパンに対しての代表的な梁の断面は 120×120mm 角柱について示すと、スパン 2730mm では「120×240mm」(53%)、スパン 3640mm では「120×300mm」(66%)、スパン 4550mm では「120×360mm」(46%)でした。スパン 5460mm では回答が少なく、代表値は得られませんでした。120mm の幅に対して、高さ 360mm、390mm、400mm という回答がありました。

### 小屋組

地域型住宅の小屋組\*について尋ねたところ、「和小屋組」(89%)、「洋小屋組」(10%)、「<sup>きす</sup>扱首組(1%)」という結果でした。

### 耐力壁

地域型住宅の耐力壁について尋ねたところ、集計では「木材(片筋交い)」(41%)、「木材(たすきがけ)」(28%)が多数を占めていました(図-4)。

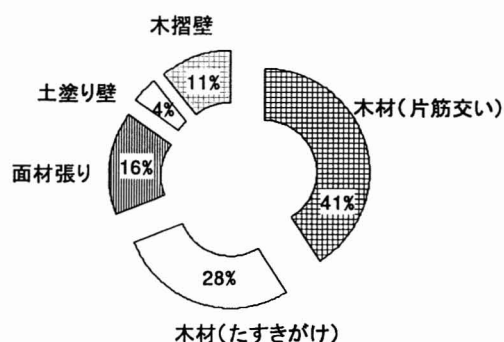


図-4 地域型住宅で採用した耐力壁

### 接合方法(刻み)

地域型住宅の接合方法(刻み)について尋ねたところ、集計では「プレカット」(52%)、「大工による刻み」(32%)、「両者併用」(16%)でした。

### 使用木材の樹種

使用木材の樹種を地域型住宅と一般住宅に分けて聞いたところ、地域型住宅の方が国産材の使用頻度が高い傾向にありました。

従って、地域型住宅造り手は国産材にこだわって樹種を選んでいることがうかがえました。また、単位面積当たりの木材使用量も地域型住宅の方が多い傾向が認められました。

### 防腐・防蟻

防腐・防蟻に対する配慮を尋ねたところ、土台に耐久性の高い樹種(クリ、ヒバ)を使用したり、構造的に床下や壁内の湿度が上がらないように工夫した工法が、回答として得られました。

### 寒さ対策

寒さ対策としての断熱材について尋ねたところ、地域型住宅、一般住宅とも外壁と天井はグラスウールの16k品を100mmの厚さで使用するのが一般的でした。床の断熱材は両者ともウレタンフォーム系とポリスチレン系が多く使われていました。これらの傾向は地域的な傾向が少なく、長野県全体に共通していました。

### 耐久性

耐久性を高める工夫について尋ねたところ多くの回答を得ましたが、

- ① 耐力壁をバランスよく配置する。
  - ② 材料の断面を大きくする。
  - ③ 通風をよくし、湿気をこもらせない。
- の3点に要約できました。

### 地域型住宅の認識

地域型住宅に対する提案を自由に書いてもらったところ、回答者の意識は「近くにある材を生かし、風や光が通り抜け、シンプルな間取りの耐用年数が長い家」に集約できました。

### 3 おわりに

これらの結果は県産材の利用を考えるうえで参考になると思います。

なお、このアンケートは日本住宅木材技術センターの補助を受けて行いました。また、実施に当たり(有)住まい考房 清水宏氏、馬場さやか氏の協力を得ました。

(木材部 橋爪)

### \*小屋組の形式

